［調査・実践報告］

学習項目定着のための「毎朝２文ディクテーション」の試み

外崎淑子

１．はじめに

本稿は，学習項目の定着とその習得具合を測るために行った「毎朝２文ディクテーション」についての実践報告である。

日本語のインテンシブコースでは，毎日のように新しい文型や語彙を学習する。授業での導入，練習だけでは理解に留まり，定着には至らないことがあるため，通常，授業後に宿題を課し，くり返し練習させて定着を図ることが多い。宿題を課さない場合でも，定着のための自主学習を促すために短いスパンでの到達度テストを実施することがある。

2017年春学期に筆者が担当した日本語クラス（開始時レベル初級後半，到達目標は中級前半）は，３人のティームティーチングであったが，毎日の学習項目の定着とその確認のために，前日に学習した内容の文のディクテーションを毎朝２文ずつ行うという活動を講師全員で行った。本稿は，そのディクテーション活動と誤用の傾向を報告し，この活動の改善点について考えるものである。

２．実践の目的

ディクテーションは，言語能力を測る目的でも，聴解力向上のための訓練としても，古くから行われている。 例えば Johansson（1973）は，TOEFL における listening comprehension のスコアとディクテーションの相関として，0.83という高い数値を挙げており，Oller（1972）も，外国人留学生のプレースメントテスト（語彙・文法・作文・音声識別からなる試験）の結果とディクテーションとの間に0.88という相関が見られると報告している。筆者の勤務する大学の別科日本語研修課程においても，筆者が調べたところによると，2017年春学期に実施したプレースメントテスト（受験者110名，試験問題は文法・読解・聴解からなる）結果とディクテーションとの間に，0.82の相関が出ている。以上のことから，ディクテーションは聴解力及び総合的な言語能力を測る一つの手段であるといえる。

聴解力向上のための訓練としては，杉浦・竹内・馬場（2002）が，日本人英語学習者に，

「予習（宿題：ディクテーション課題の自律学習）→授業」からなるディクテーション主体のリスニング授業を行い，その効果を検証したものがある。事前事後テストにより，「ディクテーション形式のリスニングトレーニングには学習効果がある（p.119）」，宿題にかけた時間と宿題のスコアの相関，授業時間のディクテーション活動とそのスコアの相関から，「時系列でみると学習が進むとともに，学習に費やす時間が減少（宿題），もしくは一定（授業）であるのに，成績が上がる傾向が見られた（p.119）」といった点を報告している。松岡・榎田・橘野（2012）は，学習者自身による任意の反復音声再生を伴うリピーティッド・ディクテーション演習により，ワーキングメモリの効率性が向上し，聞いて書き取ることのできる英文の長さが伸びるとしている。

ディクテーション活動にはその効果的な実践方法の報告が多く，個別練習を推奨する小河原・高橋（2013）等，多くの先行研究がある。また，ディクテーションには，一部の単語だけを書き取らせる「部分ディクテーション」と，文，または文章の全てを書き取らせる「全文ディクテーション」があり，元田（2014）は，全文ディクテーションには，従来言われている文法力や統語力，聴解記憶保持力，作業記憶力の向上が期待されるだけでなく，モティベーションの向上，学習者ごとの誤用の傾向の可視化，といった効果があることを報告している。日本語学習者のディクテーションの誤答分析には，築山（2014），本橋・石澤（2015）等があり，日本語レベルと誤答との関係，初級学習者の音声知覚の実態などが報告されている。

筆者の担当したクラスでは，学習項目の定着具合を測るためと学習項目の定着のために，「毎朝２文ディクテーション」を行った。従来，そのためには到達度テストや宿題が用いられるが，この「毎朝２文ディクテーション」活動は，これら到達度テストと宿題の不足要因を補うものであると考えたためである。

まず，到達度テストについて述べる。到達度テストは筆記試験だけでなく，口頭試験もそれになりうる。学習した内容に沿ってのインタビューテストやロールプレイテスト，及び，テーマについての口頭発表がそれにあたる。到達度テストでは，学習した内容の理解度を幅広く測定でき，口頭試験であれば，学習項目が実際に使えるか否かまで測定できる。試験に向けて自主的に勉強させることで，定着の促進にも繋がる。しかし，到達度テストの実施には，テスト作成という教師の負担と，筆記でも口頭でも実施に一定の時間を要する上に，学習時から試験実施までの時間がある程度開き，実施後のフィードバックまでも時間を要する。日々の学習項目の理解具合や定着の状況を知るには，到達度テストだけではその時々の対応ができない。

次に，筆記による宿題について考える。日々の宿題は，学習項目の定着のために課され，各学習者がその学習項目を正しく理解しているかも知ることができる。宿題チェックでは，当該学習項目ではない語彙や文法の間違いも発見，訂正できる。ただし，筆者の担当するクラスでは，宿題返却時に一人一人に丁寧にフィードバックする時間が十分に確保できないため，返却する際，間違いの多いものについてのみ全員に解説，４，５分の個別見返しの時間に個々の質問に答えるのみである。また，到達度テストほどではないが，実施からフィードバックを受けるまでに間が開く。宿題の返却は，標準で宿題を書いた日の２日後である。

定着度を測るという点に絞って考えても，筆記試験や筆記による宿題は，問題を見ながらゆ

っくりと考えることができ，宿題は，教科書や辞書を使うこともできる。これらの場合，正しく理解してさえいれば，「知っているけれど使えない状態」，すなわち，自由な運用に至っていなくとも正答が得られる。

フィードバックへの関心という点でも，到達度テストと宿題にはやや課題がある。筆者の体験上，多くの学習者は返却されたテストや宿題を丁寧に見返し，何をどう間違えたか知ろうとするが，中には，教師のフィードバックに無関心な者も存在する。そういった学習者は，残念ながらスコアの低い者に多い。彼らには，その都度負担の少ない小さな確認活動と実施後即時のフィードバックが必要である。

では，文ディクテーションについて考える。文ディクテーションには，①ことばを聞き取り（音声知覚），②その内容を理解し，③聞き取ったものを短期的に記憶に残し，④それを保持しつつ書き出す，というプロセスがある。学習したばかりの文型や語彙は，ワーキングメモリの処理効率が悪く，聞いても簡単に書き出すことができない。ある文のディクテーションが正確にできるということは，その文の文型や語彙の処理が自動化されているということである。このことから，文型や語彙の定着度を測るツールとして，文ディクテーションは適している。また，フィードバックの点でも文ディクテーションは優れている。実施後すぐに，全員に正答を見せることができるため，どこをどのように間違えたか，学習者はその場で確認できる。正答提示の後，正答を見せながらのリピーティング，正答を隠してのリピーティングを行うことで，誰が言えていないかチェックができ，すらすら言えるようになるまで各自口頭練習することでさらなる定着に繋げることができる。一斉に実施し，一斉にフィードバックができるため，リピーティング練習まで入れても，時間はあまり掛からない。また，教師も回収した解答用紙から，個々の間違いの特徴を知ることができる。

ディクテーションを，リスニング，スピーキング，ライティングの技能を伸ばすためのみならず，学習した文型・語彙の定着を図るために行った実践報告としては，田口・中村・西山（2013）があり，中級日本語学習者を対象としたピアリーディングが，文法・語彙の確認や漢字の表記の確認などにも役立つことを報告している。しかしこの活動にはかなりの時間を割く（１回30～40分）のと，ディクトグロスという，聞き取ったテキストの大意を掴んで学習者自らが再構築する手法を採っているため，毎日の小さな確認には適さないと判断した。以上のことから，2017年度春学期，筆者の担当する別科日本語研修課程のコースにおいて，「毎朝２文ディクテーション」を実施した。

３．実施の概要

3.1　対象クラス

筆者の勤務する別科日本語研修課程の中級前半レベルのクラスを対象とした。国籍の多様な15名からなるクラスで，学習時間は１日３コマ（90分×３コマ）で週５日間，15週である。週15コマのうち，教科書を用いた授業は９コマで，主教材として『改訂版 日本語中級 J301 ―中級前期―』（スリーエーネットワーク）を全課と，『できる日本語 中級』（アルク）の１課～

６課までの抜粋を使用した。この主教材で勉強した内容の定着のために「毎朝２文ディクテーション」を実施した。このコースでは，週15コマのうち，他に，聴解２コマ，作文，話し方，読解，文化の授業がそれぞれ１コマずつ行われている。

3.2　実施の手順

１）ディクテーションをする文の選定

主教材を用いて授業を実施した担当講師が，その日，あるいは関連してその前日の学習で重点的に練習した文型や語彙を含む文から，教科書，あるいは宿題帳に出てきて，最低一度は皆が聞いたり言ったりした文を２文選ぶ。以下に例を挙げる。2017年６月28日（水）と29日（木）の授業では，主教材の『改訂版 日本語中級 J301 ―中級前期―』を用い，「～を欲しがる」「～わけだ」といった文型を学習している。教科書の文法の練習の例として，「弟はサッカーボールを欲しがっています」という文があり（p.133），教科書本文にも Grammar Notes にも例文として「こういう方法でサルの視力を測定することができるわけです」がある（p.124, 129）。学習者はこれらの文を授業中に見聞きしている。この２文を2017年６月30日（金）実施の「２文ディクテーション」として選定している。

２）ディクテーションの方法

①前日の担当講師が選定した２つの文を，当日の担当講師が口頭で提示する。文は２回ずつ読む。まず，最初の文を自然な速度で１度に読み切る。皆の書き具合を見て，鉛筆の止まったところで，２回目も同じように読む。２文目も同じように実施する。１文が長い場合は，１度目は最後まで読み切り，２度目は従属節，主文の２つに分けて読む，３度目は最後まで読み切る，のように行う。漢字，ひらがな，どちらを使ってもいいが漢字で表記した場合はその読み方を漢字の上に書かせた。

②答案の紙を回収する。

③答案の回収後，教師が正答を黒板に板書，あるいは，書画カメラや PPT を用い，プロジェクターで投影する。正答を見ながら数回リピーティングする。

３）評価

授業後，答案の紙をチェックし，間違いを赤で直し，当日又は翌日返却する。

４．実践結果

4.1　全体像

実際には，2017年４月12日から始め，58回116文を実施しているのだが，2017年６月29日から７月20日までの11日間に行った全部で22文のディクテーションを観察対象とする[1)]。これらの22文と出典，正答率は資料１に掲載した。クラス在籍者15名のうち，研究協力の得られた13名のデータを考察する。

本来，全22文×13名ゆえに，286文のデータがあるはずであるが，欠席や遅刻によってデータのない者がおり，結果，全部で194データを回収した。うち，１つでも間違いを含む文が85

文で，全体の正答率は56.2％であった。各人のデータを見ていくと，正答率の一番低い者が16.7％，高い者が86.3％である。文別に見ると，正答率100％の文が２文，正答率13％の文が１文，正答率18％文が２文である。

4.2　誤答傾向

ディクテーションの誤答研究としては，中級レベルの日本語学習者の部分ディクテーションの誤答調査を行った宮城（2002）がある。宮城（2002）は，学習者の誤りは，１）音声の聞きとりが正確にできないために起こる誤り，２）前後の文脈の理解と，文の構造を理解していないために起こる誤り，３）語彙不足による誤りの３つに大別することができる（p.44）としている。本稿の調査結果からも，ほぼ同様の傾向が見られた。本実践報告の調査結果を下記に記す。

１）カタカナ語の表記の誤り

笠倉・宮城（2014）は，タイ人学習者によるカタカナ語の表記の特徴を調べるために，以下，３つの実験を行っている。①文字で提示された英単語を日本語で何というかカタカナで書く，②文字で提示されたタイ語単語を日本語で何というかカタカナで書く，③音声で提示されたカタカナ語を聞いて，カタカナで書き取る。その結果として，テスト③，すなわちディクテーションが最も正答率が高いということを報告している。本稿のデータとして挙げた学習者13名のうち，４名がタイ人学習者であるが，この４名も，他の学習者同様，ディクテーションにおいてカタカナ語の誤答は多い。本実践ではディクテーション以外の方法との比較をしていないため一概にはいえないが，ディクテーションであっても，カタカナ語は難しいようである。以下＜表１＞は，22文中に現れるカタカナ13語のディクテーション結果である。特殊拍の語は習得が難しいと言われるが，同じ長音であっても「スポーツ」「スープ」のように語中の長音は書き取れているが，「サッカー」「コーヒー」「ソファー」など，語尾の長音は書き取れていない。本橋・石澤（2015）は，初級学習者の特徴として，長音は聞き取れても，その長音がどこに割り当てられるのか瞬時に判断できないということを挙げているが，本実践でも同じ傾向が見られた。

＜表１　カタカナ語とその誤答＞

誤答ゼロのカタカナ語	スポーツ，タイ，スープ，カメラ，テレビ，ホテル	
誤答のあるカタカナ語（誤答数／総数）	カタカナ語	誤答
	サッカーボール（５/10）	さかぼる，サッカープール，サッカーボル，サカバール，サッカバール
	コーヒー（２/10）	コーヒ（２例）
	パソコン（２/10）	ハソコン（２例）
	パスワード（３/10）	パースワード，ポスワード，パスワート
	クラス（１/９）	ケラス
	ソファー（２/８）	ソーファ，ソパァー
	インターネット（４/８）	インタネット（３例），インターネットー

他に，カタカナ語そのものは誤答ではないものの，カタカナ語に引きずられて，カタカナ語の前の漢語やカタカナ語につづく機能語をカタカナとして誤認識したものに「防犯カメラ」と「コーヒーでも」がある。「ボハンカメラ」「ポハンカメラ」，「コーヒーデモいかがですか」といった誤答である。「漢語＋カタカナ語」の複合語に慣れていないことや，わからないことばをカタカナ語として捉えてしまうことが要因ではないかと考えられる。和語や漢語は音のみではなく意味を想起させる漢字表記を持つが，カタカナ語の表記にはそれがないことから，音を聞いて書き取るのが難しい。そのため，カタカナ語はその表記そのものを覚えるよう指導する必要があると感じた。

２）文型を習得し切れていない間違い

文型に関わる誤答が複数出た文が４例あった。

①正答「お時間がありましたら，ここでコーヒーでもいかがですか。」

（『J301』９課 Grammar Notes 練習より）

誤答１「お時間がありましたら，ここでコーヒーデモいかがですか」

誤答２「お時間がありましたら，ここでコーヒーでもいいですか」

誤答３「ご時間がありましたら，ここでコーヒをいかがですか」

誤答４「おじかんがいますから，ここでコーヒーでもいいですか」

誤答５「５じかんありましたら，＿＿＿コーヒーでもいかがですか」

②正答「日本は南北に長い島で，周りを海に囲まれている。」

（『できる日本語中級』６課―１より）

誤答１「日本は何ぼくにながいしまでまわり＿海を かもっている」

誤答２「日本は南北に長い島で，周りの海を 囲まっている」

誤答３「日本はなんこくにながいしまで周りの海をかこまれている」

誤答４「日本は南北に長いしまでまわり＿海にかこまれます」

③正答「このクラスはパクさんを中心として，よくまとまっている。」

（『できる日本語中級』６課―４より）

誤答１「このクラスはバクさん＿ しゅうしんとしてよくまとまっている」

誤答２「このケラスはパックさんの しゅうしんとしてよくまっとまっている」

誤答３「このクラスはパクさんをじゅうしんとしてよくまとまっている」

誤答４「このクラスはパクさんをちゅうしんとしてよくまとまている」

④正答「大人とは違う考え方だが，子どもは子どもなりに考えている。」

（『J301』10課 本文，Grammar Notes 練習より）

誤答１「大人とは違う考え方＿，子どもは子どもなりに考えている」

誤答２「大人＿は違う考＿＿＿ 子どもは子どもない＿考えている」

誤答３「大人とは＿＿＿考え＿＿が，子どもは子どもなりに考えている」
誤答４「大人＿は違う考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」
誤答５「大人と＿ちがう考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」

①は，「丁寧形＋と／たら／ etc」が学習項目であり，「お時間がありましたら」の部分が文型としてフォーカスされている。授業中の練習で「お時間がありましたら，……」「お暇でしたら，……」などを行っているが，「お時間」が定着していない者がいた。また，「コーヒーでもいかがですか」の「でも」や「いかがですか」は，この文型学習時に特に意識させて練習はしていないが，既習文型である。しかし，「コーヒーでもいかがですか」が習得できていないことから，こういった誤答が出てきたと考えられる。

②は，「N に囲まれている／ N_1 に囲まれた N_2」が学習文型であり，「周りを海に囲まれている」が文型としてフォーカスされている。「周りを海に」が書けておらず，学習項目が定着していないことがわかる。

③は「N を中心として」が学習項目であり，「パクさんを中心として」が文型としてフォーカスされている。「を中心として」の部分が習得されていないために，初出語の音の聞きとりと同じ状態になり，結果，単音の聞きとりの間違いを犯している。

④は「N は N なりに」が学習文型であり，「子どもは子どもなりに」が文型としてフォーカスされている。その部分の誤答は少ないのだが，そこに繋がる文の「大人とは違う考え方だが」に間違いが多く出た。学習文型は覚えたものの，それを含む文の理解や産出に繋がっていない状況である。

３）学習語彙（授業でフォーカスした語）の間違い
①正答「設定」（『J301』９課 書いてみよう　より）
誤用「せって＿」（１例）
②正答「設置」（『J301』９課 書いてみよう　より）
誤用「せっじ」（２例）「せって」（１例）

４）学習語ではない語の間違い
①正答「過去に出た問題を，もっと勉強しておけばよかったです。」の「過去」「出た」
（『J301』10課「話し合ってみよう」 より）
誤答１「かくにでたもんだい」　誤答２「かこにデタン問答」
誤答３「かっこ　データに問題」　誤答４「かっこうにでたもんだい」
誤答５「かごにでたもんだい」　誤答６「かぼに出た問題」
誤答７「がっこうに出たもんだい」

②正答「本番でうまく話せて，自分でもびっくりしています」の「本番」「うまく」「びっくり」など

（『J301』10課「話し合ってみよう」より）

誤答１「こんばんでうまくはなせて，じぶんでもびっくりしています」
誤答２「黒板で　今く話せて，自分でもぴっくりしてもいます」
誤答３「ほんばんに　＿＿＿はなせて自分でもびっくりしています。」
誤答４「こんばんで　うまを　うませて　じぶんでもびっくりし＿＿ます」
誤答５「こんばん　でんわ　はなせて，じぶんでもひっくりしています」
誤答６「ほんばん＿うまく話せて，自分でもびっくりしています」
誤答７「ほんばん　うまの　はなせて　じぶんでもひっくりしています」
誤答８「ほんばんで　いまく　はなせて，じぶんでもびくりしています」

①は「過去に」が聞き取れず，「出た問題」が理解できなかったことから，近い音で知っている語をとりあえず書いた解答が多い。誤答７は，その中でも，文全体で意味の通じるような語を選択し，書こうとしていることが窺える。

②は，「本番」を「今晩」と認識した者が３名，「黒板」と認識したものが１名いた。誤答５は，「今晩電話で話せて」と聞き間違えた可能性もあるが，そうだとすると，音の区切りを間違えている。少しずつ聞こえた音から語を組み立て，意味が通じるように後から再構築したのかもしれない。「びっくりする」も複数の者が語頭の音と促音が聞き取れていない。

4.5　正答の傾向

誤答が１例もでなかった文は，次の２文である。

①「東海大学といえば，スポーツが有名です」（正答率100％）
②「母の作った料理はおいしい」（正答率100％）

他に正答率の高かった文は，以下の２文である。

③「タイ料理というと辛いスープを思い浮かべる人が多いと思います」（正答率89％）
④「こういう方法でサルの視力を測定することができるわけです」（正答率80％）

全員が正解した２文は，まず文そのものが短い。また文型が入っているとはいえ（①は「～といえば」，②は名詞修飾節内の「が／の」交替），複雑な文型ではない。正答率の高かった③と④は，文としても長く，③の「思い浮かべる」は語彙としても難しいと考えられるが，誤答が少ない。これは前日の授業で「～というと，～を思い浮かべる」をくり返し練習したため，皆，語彙として定着したのだと考えられる。やはり授業内で丁寧に練習した文は定着もよい。

4.6　その後の試験との関係

学期中に行ったディクテーション文は，中間試験（2017年５月29日実施）と期末試験（2017

年７月26日実施）の「聴解」の試験で４文ずつ出題した。中間試験，期末試験では，CD による音声を自然な速度で２回聞かせ，書き取らせた。期末試験で出題した文は，以下，①～④の４文である。このうち日々のディクテーション活動の記録のある①，③，④について考察する[2)]。

①東海大学といえば，スポーツが有名です。
②ことばの勉強は継続することが大切です。
③本番でうまく話せて，自分でもびっくりしています。
④大人とは違う考え方だが，子どもは子どもなりに考えている。

①は，７月７日に実施したディクテーションでは誤答がなかったが，７月７日に不在だった２名に期末試験において，カタカナの誤記が見られた（２名とも「スポツ」）。
③は，７月20日の誤答は上記に挙げたとおり８例だが，誤答４の学習者以外，全員，正答を書いた。誤答４の学習者の表記は以下である。

誤答４（７/20：朝のディクテ）
「こんばんで うまを うませてじぶんでもびっくりし＿＿ます」
（７/26期末試験）
「ほんやで うまくはなしてじぶんでもびっくりし＿＿ます」

間違えてはいるものの，少し改善している。
④は，誤答１の学習者のみ正答を書き，他の誤答２～５の学習者は期末試験でも正答が書けなかった。

誤答２（７/20：朝のディクテ）
「大人＿は違う考＿＿＿　子どもは子どもない＿考えている」
（７/26期末試験）
「大人とは簡単＿＿＿＿　子どもは子どもなりに考えている」
誤答３（７/20：朝のディクテ）
「大人とは＿＿＿考え＿＿が，子どもは子どもなりに考えている」
（７/26期末試験）
「大人とは違う考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」
誤答４（７/20：朝のディクテ）
「大人＿は違う考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」
（７/26期末試験）
「大人とは違う考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」
誤答５（７/20：朝のディクテ）
「大人と＿ちがう考え方＿が，子どもは子どもなりに考えている」

（7/26期末試験）

「大人と＿ちがう考え方は，子どもは子どもなりに考えている」

逆接の接続助詞「が」が習得できていないことがわかる。「それなのに」「けれども」「しかし」といった逆接の接続詞は，主教材『日本語中級 J301』の学習時に取り扱ったが，逆接の接続助詞「が」は授業で取り上げなかった。「Nだが」にすることで，逆接の接続詞とわかるが，誤答を書いた学習者は「だ」を落としており，「大人とは違う考え方（が）」として，これを主語として取り違えたままの可能性がある。こうした予想しない間違いも，文ディクテーションでは発見できる。とはいえ，「Nだが」のように，学習文型ではないところで，最後まで習得しきれなかった文型を残したのは心残りである。

5．改善点とまとめ

以上，「毎朝２文ディクテーション」の実践報告を行った。この活動の改善点を３点挙げる。まず１点目は誤答の多かったカタカナ語についてである。カタカナ語はある程度の表記のルールはあるものの，ルールを覚えるよりも，表記そのものを覚えてしまったほうが効果的であると考えられる。そのため主教材に出てくるカタカナ語は，リストとして学習者に与えたほうがよい。学習者がカタカナ語の表記を間違えている場合，その発音も間違えていることが多く，意志の疎通に支障をきたすこともあるため，学期中の学習項目でなくとも基本的なカタカナ語は習得させたい。２点目は，フィードバック後の復習についてである。この活動では，ディクテーション直後に正答を見せ，リピーティングをすることで定着を図ったが，やはり，手で書くことで語や助詞を正確に記憶に残すステップを踏んだほうがいいのではないか。正答を提示した際に，リピーティングがうまくいかない場合は，学習者のノートに正答を書き取らせる，という作業を入れたほうがより効果的だろう。最後は，「大人とは違う考え方だが……」の誤答のように，間違いを発見できたのに，その修正ができないようなものをいかに減らすか，ということである。間違いの多い文は，意味が理解できているかどうか丁寧に確認し，必要に応じて，説明・練習の時間を取る必要がある。例えば，該当する「大人とは違う考え方だが」について言えば，「天気予報では雨だが，今日は出かけるつもりだ」のように，類似の例文も提示し，定着を図る必要がある。また，今回，ディクテーション活動のうちの最終11日間のみデータの複写を取ったが，できれば全データの複写を取り，定期的に間違いの多いものは何か，それらがその後，改善されたかどうかチェックすると，よりよい活動になるだろう。その際，「全データの複写を取る」という作業が教師の負担とならないよう，複写が簡単な解答用紙を用意する必要がある。

本研究では「毎日２文ディクテーション」の効果について，数値的な根拠は示すことができなかったが，前日の学習項目の一部を朝の５分で振り返ることができるため，短時間で習得の確認と定着を促す指導が行えるという点で効果があると考える。インプットの多さは，記憶に残すための重要な要因である。また，元田（2014）が全文ディクテーション活動の記録を個別

にチェックすることからまとめているように，各学習者の誤用の傾向を知ることもでき，常に間違える表記はマーカーなどで意識させることもできる。今後も，ティームティーチングの担当講師と共に，この活動を効果的に続けていきたいと考えている。

注

１）学習者の解答用紙の複写を回収したのが最後の11回であり，それ以前のデータがないため。

２）「２文ディクテーション」で用いた文のみ中間試験と期末試験に出題したため，「２文ディクテーション」で扱わなかった文の正答率との比較はできない。

参考文献

本橋美樹・石澤徹（2015）「日本語初級学習者による文字表記の謝りの特徴―無意味語との比較から―」『関西外語大学留学生別科　日本語教育論集』25号，pp. 15-23.

Johansson, Stig（1973）“An Evaluation of the Noise Test: A Method for Testing Overall Second Language Proficiency by Perception under Making Noise, *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*, 11,2, 103-133.

笠倉敬弘・宮城幸枝（2014）「タイ人学習者のカタカナ語の習得：表記・発音から観察する」『東海大学大学院日本語教育学論集』第４号，東海大学大学院文学研究科日本文学科日本語教育学コース，pp. 1-21.

松岡博信・榎田一路・橘野実子（2012）「リスニング力の構成要素について―ワーキングメモリとディックテーション・スパン―」『大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要』（９），大学英語教育学会（JACET）中国・四国支部，pp.83-92.

宮城幸枝（2002）「総合日本語力を高めるための『音声教材』の活用―中級レベルの指導を中心に―」『東海大学紀要　留学生教育センター』22号，41-53.

元田静（2014）「日本語レベルが多様なクラスでの全文ディクテーションの試み」『日本語教育方法研究会誌』21（１），日本語教育方法研究会，88-89.

小河原義朗・高橋亜紀子（2013）「ディクテーションによる音声知覚トレーニングの実践と課題」『日本語教育方法研究会誌』20（２），日本語教育方法研究会，60-61.

Oller, J.W.Jr.（1972）“Dictation as a Test of ESL Proficiency”, in Allen, H.B. and R.N.Cambell（eds.）*Teaching English as a Second Language*. McGraw Hill, 346-354.

杉浦正利・竹内彰子・馬場今日子（2002）「リスニング能力養成のための自律学習：ディクテーションの効果」『言語文化論集』23（２），名古屋大学大学院国際言語文化研究科，pp.105-121.

築山さおり「中級日本語学習者を対象とした日本語日常会話のディクテーションの誤答分析―文法・語彙の習熟度の観点から―」『同志社大学　日本語・日本文化研究』第12号，pp.87-108.

田口香奈恵・中村フサ子・西山友恵（2013）「中級学習者を対象にしたピアディクテーションの実践報告―インタビューから見えた効果と課題―」『日本語教育方法研究会誌』20（１），日本語教育方法研究会，60-61.

＜資料１＞

	実施日	出典	文	正答率
1	6/29	J301 9課 Grammar notes 練習	弟はサッカーボールをほしがっています。	40%
2		J301 9課 Grammar notes 練習	お時間がありましたら，ここでコーヒーでもいかがですか。	40%
3	6/30	J301 9課 Grammar notes	こういう方法でサルの視力を測定することができるわけです。	80%
4		J301 9課 Grammar notes	最近暖かくなってきて，家の前の庭にも虫が増えてきました。	70%
5	7/3	J301 9課　書いてみよう	新しいパソコンのパスワードを設定した。	40%
6		J301 9課　書いてみよう	この建物の入り口には防犯カメラが設置してあります。	30%
7	7/5	できる日本語中級６課-1	日本は南北に長い島で，周りを海に囲まれている。	43%
8		できる日本語中級６課-1	日本は山林が国土の 3 分の 2 を占めている。	67%
9	7/6	できる日本語中級６課-3	体の調子が悪い時には寝るに限る。	67%
10		できる日本語中級６課-4	このクラスはパクさんを中心として，よくまとまっている。	56%
11	7/7	できる日本語中級６課-5　宿題帳	東海大学といえば，スポーツが有名です。	100%
12		できる日本語中級６課-5　宿題帳	タイ料理というと辛いスープを思い浮かべる人が多いと思います。	89%
13	7/11	J301 あっ，これなに？３	日ごろ，忘れていませんか。大切なこと。	67%
14		J301 10課「読む前に」	2 つの絵を比べて，気がついたことを話しあってみよう。	78%
15	7/12	J301 10課 Grammar notes	母の作った料理はおいしい。	100%
16		J301 10課 Grammar notes	あの人は最近会社を休みがちです。	71%
17	7/13	J301 10課 Grammar notes 練習	日本では地震はいつでもどこでも起こりうる。	75%
18		J301 10課 Grammar notes 練習	大人とは違う考え方だが，子どもは子どもなりに考えている。	13%
19	7/14	J301 10課「ことばのネットワーク」	夕食が済むと，父はいつもソファーに寝転がって，テレビを見ています。	37.5%
20		J301 10課「ことばのネットワーク」	ホテルに泊まるとき，インターネットで評価の高いホテルを選ぶ。	37.5%
21	7/20	J301　10課「話し合ってみよう」	過去に出た問題をもっと勉強しておけばよかったです。	18%
22		J301　10課「話し合ってみよう」	本番でうまく話せて，自分でもびっくりしています。	18%